



三種町

議会だより

平成25年
10月15日 発行

第31号

「森岳歌舞伎の熱演 義経千本桜」

写真提供：吉田博光さん（鶴川字東鶴の巣）

も く じ

一般会計・各特別会計決算	… 2～3
議案採決結果、監査委員の意見	
委員会審議	… 4～5
財政健全化審査報告	… 6
補正予算の内容・議会改革特別委員会設置	… 7
補正予算審議・議案一覧	… 8～9
一般質問（5人が登壇）	… 10～14
所管事務調査報告	… 15
臨時会、請願・陳情	… 16
子ども議会・研修報告	… 17
三種の星・編集後記	… 18

発行：三種町議会

編集：議会広報編集特別委員会

〒018-2401 秋田県山本郡三種町鶴川字岩谷子8番地

TEL(0185)85-4831 FAX(0185)85-2178

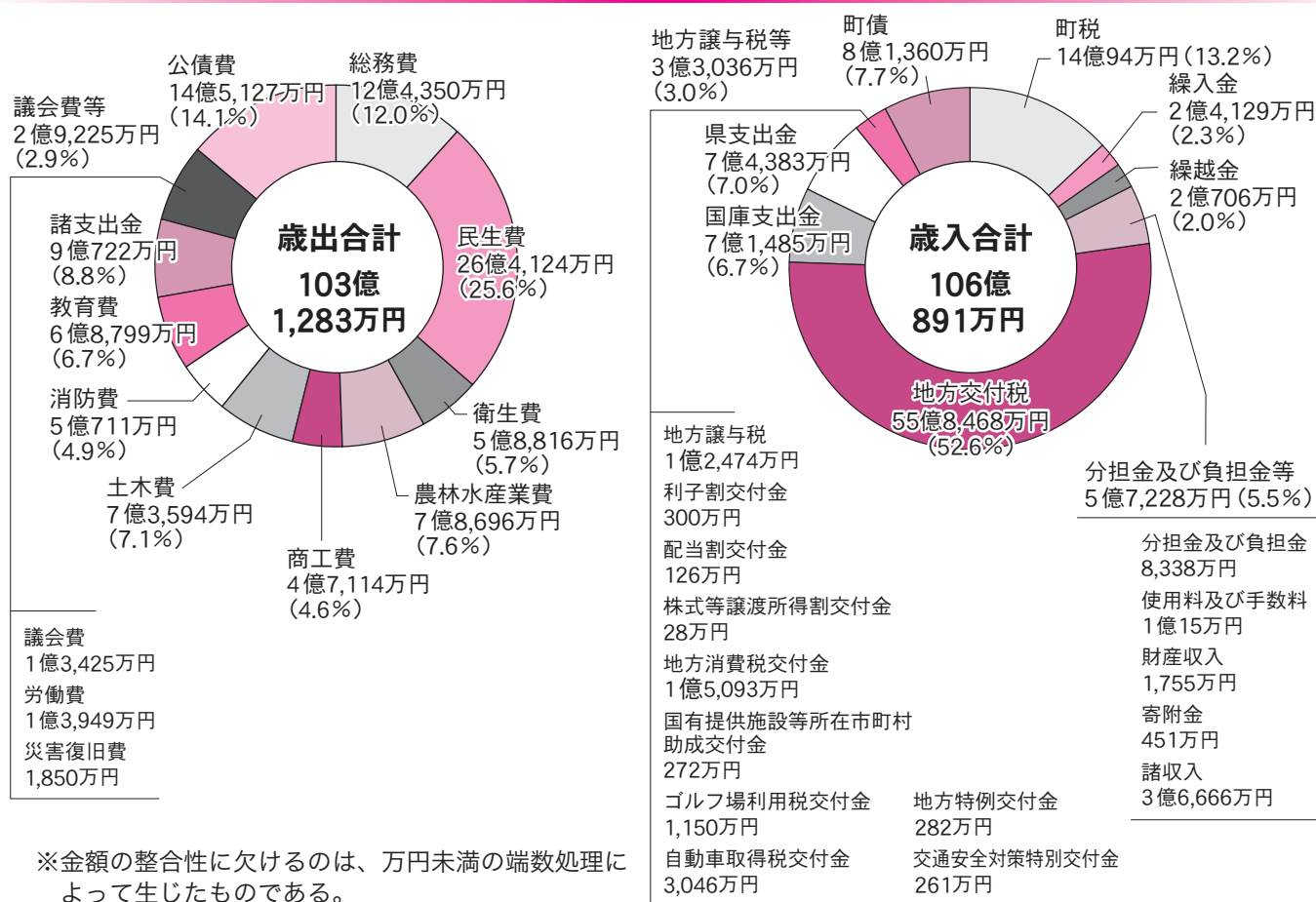
URL <http://www.town.mitane.akita.jp/>

円を認定 10特別会計・1企業会計も認定

平成24年度一般会計の決算状況は、歳入106億891万円に対し歳出103億1,283万円で、差引額2億9,608万円であるが、翌年度へ繰り越すべき財源として、繰越明許費繰越額5,007万円が含まれており、これを差し引いた実質収支額は2億4,601万円で黒字決算となった。

一般会計と国民健康保険事業勘定特別会計の決算認定議案の審議では、「財政は少しずつ好転しているが、硬直化していることに変わりない」「低所得者の負担軽減を考えるべき」との反対討論があり、起立採決となったが、賛成多数により認定となり、すべての会計決算が認定された。

● 一般会計決算 ●



議案採決結果

○…賛成 ●…反対 欠…欠席 退…退席

議員名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	結果
鈴木 一幸	加藤 彦次郎	清水 欣也	安藤 賢藏	工藤 秀明	堺谷 房子	平賀 真	伊藤 千作	近藤 一彦	金子 芳継	袴田 隆	三浦 敦	大澤 和雄	宮田 幹保	児玉 重吉	斎藤 清作	後藤 栄美子	小澤 高道			
一般会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	●	○	○	○	-	○	○	認定
国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	●	○	○	○	-	○	○	認定

※採決の際に賛否が分かれた議案を掲載しています。

※議長は採決に加わりません。

一般会計決算 103億1,283万

● 平成24年度 各会計決算総括表 ●

(単位：千円)

会 計 名		調 定 額 ①	歳入決算額 ②	歳出決算額 ③	差 引 額 ②－③	不納欠損額 ④	収入未済額 ①－②－④
一 般 会 計		10,860,169	10,608,916	10,312,830	296,085	36,219	215,034
特 別 会 計	国民健康保険事業勘定	2,861,163	2,740,784	2,534,447	206,337	21,606	98,772
	後 期 高 齢 者 医 療	174,119	172,788	171,276	1,511	148	1,183
	簡 易 水 道 事 業	419,328	416,602	404,151	12,451	0	2,725
	公 共 下 水 道 事 業	655,940	567,299	563,475	3,823	34,039	54,602
	農 業 集 落 排 水 事 業	411,836	404,796	402,083	2,712	4,842	2,198
	介護保険事業勘定	2,566,576	2,559,564	2,526,970	32,594	2,134	4,877
	介護サービス事業勘定	30,488	30,488	29,326	1,161	0	0
	衛 生 処 理 事 業	31,191	31,191	28,105	3,085	0	0
	温 泉 事 業	42,933	24,060	23,604	455	0	18,873
	国民健康保険診療施設勘定	0	0	0	0	0	0
	特 別 会 計 合 計	7,193,579	6,947,575	6,683,441	264,134	62,770	183,232
総 合 計		18,053,748	17,556,491	16,996,271	560,219	98,989	398,267
水 道 事 業	収益的収支	－	139,875	146,812	△ 6,936	－	－
	資本的収支	－	81,434	113,145	△ 31,710	－	－

※ 金額の整合性に欠けるのは、千円未満の端数処理によって生じたものである。

監査委員の意見

代表監査委員 神 馬 均

収入未済額については、各会計、運用基金、水道事業会計を含めると4億3,333万円となっており、昨年度よりも5,576万5千円減少している。一部の項目で改善が見られるものの、下水道使用料、温泉使用料、奨学金貸付金、水道料などは、残念ながら増加傾向にある。

また、時効などにより不納欠損した金額は、

9,898万9千円となっており、昨年度よりも4,583万6千円多く処理されている。本年度新たに公共下水道事業特別会計と農業集落排水事業特別会計で不納欠損が発生したためであるが、これを含めなくても1,595万5千円増えている状況である。

収納環境が年々厳しさを増す状況にあるが、苦しい中でも義務を果たしている納税者との公平性からも、また貴重な自主財源の確保という点からも、あらゆる方法を駆使して収入未済額の減少及び不納欠損額の減少に努めるよう強く要望する。

委員会審議

平成24年度各会計歳入歳出決算の12議案は、各常任委員会に付託され、委員会が所管する決算内容について審議が行われました。その結果、総務常任委員会と教育民生常任委員会は「原案のとおり認定すべき」、産業建設常任委員会は「意見を付して認定すべき」とし、本会議に報告しました。

総務 常任委員会

問 地方交付税は前年度並みのようだが、「一本算定」になった時との差額はどのくらいになるのか。また、交付税は今後どうなっていくのか。

答 5年間で段階的に減額となり、およそ7〜8億円と思われる。

減ることは確実と思っているが、まだ不明である。そのため将来に備え財政調整基金（現在27億円）を積み立てていて、財政担当としては、50億円程度まで積み立てたい。

問 納税貯蓄組合の事務費が減額されてから組合数が減っている。滞納額を減らす意味からも組合加入を増やすべきではないか。

答 合併前は、税額に応じ補助金が出ていたが、現在は納期内納付は加算金1件200円、年度内納付は1件100円に変わっている。

納税組合内に高額納税者がいる場合、それに伴い補助金が増額となることから、不公平感もあり、変えた経緯がある。

問 クアオルト事業の調査研究50万円の支出は、どのようなものか。

答 先進地である上山市を視察した。今年度は1月に熊野古道を視察する予定である。当町には海もあり、長信田の森クリニクもあることから、これらをプログラムに入れた3泊4日以上の上の事業を考えている。



総務常任委員会審議

教育 民生 常任委員会

問 高齢者世帯等除雪支援事業は大変好評を得ているようだがその概要と実績は。

答 65歳以上の高齢者世帯と障害者で構成される世帯に一冬30時間を上限に除雪支援をしていて、23年度から始まった。24年度は除雪作業に加え排雪作業も行っている。24年度実績は446件、稼働時間9千274時間で99万3千180円を支出している。降雪量により、すぐに対応できない時もあったが100%要望に込えている。

問 6月定例会の町長の答弁にあった脳ドック助成事業の進捗状況は。また、早い時期に町民に周知する必要があると考えるがどうか。

答 定例会終了後、すでに脳ドックを助成している他町村に助成額等相談したり、山本組合総合病院や

県立脳血管研究センターに予約状況など調査済みである。年度途中では予約がとれないので、対象の年齢や助成額などの検討を進め、26年度当初予算に要求する。事前のPRも早めにしていく。

問 小町地区県道拡幅工事に伴い防火水槽は移動したのか。

答 これまでの場所は宅地内に入り込んでおり、車庫証明も取れない状態であったので、場所を移動して新設している。これまでの防火水槽は、取り壊す方向である。



教育民生常任委員会審議

産業建設 常任委員会

問 定住促進事業は、昨年度と比べてどうか。家族で定住の場合は、人口対策の意味からも、補助額を上げるべきではないか。

答 23年度は個人4件、家族での定住4家族であった。24年度は個人4件、5家族である。家族数に応じ補助金増額は必要と考えている。

問 防災無線がまだ統一されていないということだが。

答 山本地域はデジタル化されているが、八竜地域と琴丘地域はまだアナログであり、いずれ統一化は必要である。

問 大館能代空港利用の際5千円の補助があるが、この制度のPRが足りないのではないかと。

答 広報4月号やホームページで周知しているが、利用客が増えるよう工夫して実施していきたい。

問 町営住宅の滞納繰越額が多いが、納付状況は。

答 入居者で分納し少しずつ支払っている人や、退去して滞納金を支払っている人もいる。

問 高額滞納者とは分納誓約書を交わしており、毎月納付している滞納者もいる。納付がなく連絡を取れない場合は、住宅へ訪問して直接話して督促をしている。

問 ご当地グルメ開発業務とは。

答 じゅんさい料理推進協議会へ委託しており、料理関係のホテルや食堂の方々が入っている。じゅんさい井のほか、サブレ、あんみつ、パフェ、じゅんさいかき揚げうどん等を開発している。将来的には自力での運営を目指している。

問 中学生の修学旅行は震災の影響により、一時北海道方面に行っていたと聞いたが、その後の行き先は。また旅行地はどのように選定するのか。

答 東京方面と聞いている。学校内で選定し教育委員会が承認している。学校内でアンケートを実施している。

問 子宮頸癌ワクチン接種が社会問題となっている。町内の状況は。

問 じゅんさいの生産量は、23年度と24年度を比較するとどうなっているのか。

答 生産量は少し下がっていて、栽培農家も減っている。高齢化が原因のようである。

答 予防接種による副作用の報告は受けていない。現在はワクチン接種の中止はしていないが、積極的勧奨はしていない。

問 福祉医療について中学生まで拡大したと聞いているが、人数はどれくらいか。

答 乳幼児から中学3年生まで、1千297人である。

問 惣三郎沼公園の草刈りは大変きれいにいられているようだが、敷地が広いため手で刈るのは大変と思われるので、自走式草刈機を用意したらどうか。

答 検討する。

意見

公共下水道事業と農業集落排水事業の分担金については、徴収事務を怠ったために不納欠損額が生じてしまった。今後の徴収事務においては、法令を遵守し、このようなことがないよう真摯に取り組み、適正な事務処理に努めていただきたい。



産業建設常任委員会審議

財政健全化審査 公営企業経営健全化審査

平成24年度決算の財政健全化審査と公営企業経営健全化審査が、監査委員の意見書を付して議会に報告されました。

◆平成24年度 財政健全化審査

健全化判断比率	平成24年度	早期健全化基準	備 考
①実質赤字比率	▲ 3.44%	13.97%	前年度 ▲ 2.54%
②連結実質赤字比率	▲ 9.57%	18.97%	前年度 ▲ 8.19%
③実質公債費比率	15.7%	25.0%	前年度 18.6%
④将来負担比率	52.1%	350.0%	前年度 79.1%

注意) 実質赤字比率・連結実質赤字比率は、実質収支が黒字の場合、負の値で表示しています。

個別意見

①実質赤字比率

平成24年度実質赤字比率は、普通会計（一般、衛生処理事業特別）では各会計とも実質収支は黒字であるため、負の値で表示となり、前年度に引き続き良好な状態にある。

②連結実質赤字比率

平成24年度連結実質赤字比率は、各公営事業会計を含めた連結実質収支は黒字であるため、負の値で表示となり、前年度に引き続き良好な状態にある。

③実質公債費比率

平成24年度の実質公債費比率は、平成20年度が公債費償還のピークであったため、対前年度比2.9%減の15.7%と大幅に改善してきている。また、起債許可団体基準である18.0%を下回る状況であり、改善傾向にあると言える。

④将来負担比率

平成24年度の将来負担比率は、行財政改革に伴う公債費の抑制（地方債現在高の減）及び財政調整基金の大幅積み増し（充当可能財源等の増）により対前年度比27.0%減の52.1%と改善している。早期健全化基準の350.0%を下回っていることから、前年度に引き続き良好な状態にある。

是正改善を要する事項

是正改善を要する事項は特にないが、実質赤字比率・連結実質赤字比率・実質公債費比率・将来負担比率など、概ね改善が認められ良好な状況と言える。今後も各比率の影響を見据えた綿密な公債費等管理を徹底した財政運営の改善に努められたい。

◆平成24年度 公営企業経営健全化審査

公営企業会計の名称	資金不足額・剰余額	資金不足比率	備 考
水道事業会計	1億8,179万円	－ %	前年度 1億5,805万4千円、－ %
簡易水道事業特別会計	1,245万円	－ %	前年度 1,030万9千円、－ %
公共下水道事業特別会計	381万4千円	－ %	前年度 102万8千円、－ %
農業集落排水事業特別会計	271万3千円	－ %	前年度 175万8千円、－ %
温泉事業特別会計	45万6千円	－ %	前年度 ▲ 191万3千円、10.4%

注意1) 資金不足比率の『経営健全化基準』は、『20.0%』です。

注意2) 『資金不足額・剰余額』は、資金不足の場合、負の値で表示しています。

個別意見

①資金不足比率

- 平成24年度は、全ての会計において黒字であり、資金不足額が発生していないため、良好な状態にある。
- 各公営企業会計においては、独立採算の原則に照らした経営計画により、当該比率に留意のうえ、健全で適正な経営運営に努力されたい。

②資金不足額・剰余額

- 温泉事業特別会計の黒字は、基金の取り崩しや一般会計からの繰り入れによるものである。事業収入の減少が見込まれる中、事業運営の抜本的な見直しが今後必要と思われる。

是正改善を要する事項

特になし。

平成25年 9月定例会補正予算の内容

9月10日～20日

会 計 名	補正前の予算総額	追 加 補 正 額	補正後の予算総額
●一般会計	103億2,070万1千円	5億7,763万5千円	108億9,833万6千円
【主な歳出】			
・ 共同電算負担金（秋田県町村電算システム共同事業組合負担金）		350万円	（一般財源）
・ 庁用車購入（町長車更新）		564万円	（一般財源）
・ 住基ネット更改（住民基本台帳ネットワーク更改）		517万円	（一般財源）
・ 子ども・子育て支援事業（事業計画ニーズ調査業務委託料）		199万円	（一般財源）
・ 地域雇用創出推進事業（事業補助金）		800万円	（一般財源）
・ 農産物直売所整備（増改築事業補助金）		888万円	（一般財源）
・ 三種三十六景フォトコンテスト（事業補助金）		60万円	（一般財源）
・ 気象調査業務（委託料）		100万円	（一般財源）
・ 河川護岸工事（滝ノ沢川・種沢川補修工事費）		800万円	（一般財源）
・ 鵜川・浜口公民館修繕（誘導灯・消火栓・警報機修繕）		238万円	（一般財源）

●特別会計

会 計 名	補正前の予算総額	追 加 補 正 額	補正後の予算総額
国民健康保険事業勘定特別会計	26億1,357万 円	385万9千円	26億1,742万9千円
後期高齢者医療特別会計	1億7,399万7千円	151万 円	1億7,550万7千円
簡易水道事業特別会計	2億1,681万6千円	1,245万 円	2億2,926万6千円
公共下水道事業特別会計	5億8,515万 円	381万2千円	5億8,896万2千円
農業集落排水事業特別会計	1億7,245万5千円	271万1千円	1億7,516万6千円
介護保険事業勘定特別会計	26億1,918万6千円	3,346万9千円	26億5,265万5千円
介護サービス事業勘定特別会計	2,633万4千円	234万4千円	2,867万8千円
衛生処理事業特別会計	2,348万7千円	308万4千円	2,657万1千円
温泉事業特別会計	3,314万6千円	45万4千円	3,360万 円

●水道事業会計

区 分	補正前の予算総額	追 加 補 正 額	補正後の予算総額
収益的支出	1億3,950万 円	116万2千円	1億4,066万2千円

議会改革特別委員会が
設置されました

平成25年9月議会定例会において、次のことを調査するため特別委員会が設置されました。

●名 称

三種町議会改革特別委員会

●設置の根拠

地方自治法第110条及び三種町議会委員会条例第5条

●目 的

議会改革に関する事項についての調査と検討

●調査期限

目的に掲げる調査が終了するまで

●委 員（6名）

委員長 大澤 和雄
副委員長 安藤 賢蔵
委員 加藤 重吉
委員 鈴木 彦次郎
委員 小澤 高一郎

修正動議を否決

平成25年度一般会計補正予算に

2議員が修正動議を提出

補正予算審議

一般会計補正予算の農産物直売所増改築事業補助金1千7万6千円が、9月議会定例会に提案された。これはJA秋田やまもとを事業主体とする八竜地域の農産物直売所（ドラゴンフレッシュセンター）の増改築事業費3千22万8千円に対して3分の1を町が補助するというものである。しかし、事業内容を精査したところ、電柱移転費が削減できることが判明したため、119万円を減額し88万6千円とする修正案が町から提案され、その後、質疑が行われた。

問 増改築に異論はないが、この計画内容は実に分かりにくく、手続きも不透明であり、貸付をしている土地に更に補助金を出すのは納得できない。もっとしっかりした計画で改めて予算要求すべきである。

答 山本・琴丘地域の直売所は指定管理者制度で運営されているため、補修等は町がお金を出している。しかし、八竜地域の直売所はほとんど直売所自身で補修してきており、少し援助が足りなかったと感じていた。総事業費の3分の1である今回の補助金は問題ないと思う。

問 ドラゴンフレッシュセンターは町から配慮されている感じがする。みんな同じレベルで配慮すべきであるため、他のグループにも援助の手を差し伸べるべきだ。

答 今回、農産物直売所整備事業費補助金交付要綱を策定した。その中の要件をみたす団体であれば補助したい。

問 要綱にある「直売所を開設しようとする場合」「直売所の機能を強化する場合」とは建て替えも含まれるのか。また、補助対象に敷地整備費とあるが、建て替えの場合は解体費も含まれるのか。

答 「直売所を開設しようとする場合」は新設、「直売所の機能を強化する場合」は増改築を含むと考



増改築予定の直売所

えている。建て替えの場合は解体費も含まれる。

質疑終了後、堺谷房子議員、加藤彦次郎議員の2名から農産物直売所増改築補助金88万6千円すべてを減額する修正動議が提出された。

修正動議の提案理由

堺谷 房子議員

敷地所有者である町が敷地整備分の工事にまで補助金を出す必要があるのか甚だ疑問である。

平成24年度決算														区分	審議された議案一覧
条例の制定・改正	子ども・子育て会議条例の制定	水道事業会計決算の認定	国民健康保険診療施設勘定特別会計歳入歳出決算の認定	温泉事業特別会計歳入歳出決算の認定	衛生処理事業特別会計歳入歳出決算の認定	介護サービス事業勘定特別会計歳入歳出決算の認定	介護保険事業勘定特別会計歳入歳出決算の認定	農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定	公共下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定	簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定	後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定	国民健康保険事業勘定特別会計歳入歳出決算の認定	一般会計歳入歳出決算の認定	議案名	
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	17	17	賛成	採決状況
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	反対	
可決	可決	認定	認定	認定	認定	認定	認定	認定	認定	認定	認定	認定	認定		結果

答 非常時停電の際の自家発電装置が設置されているので、その燃料代とペレットストーブ用の燃料代である。

問 琴丘地域拠点センターの燃料費があるが、冷暖房は電気であり、ガスと電気代だけと聞いているが。

事業主体・事業計画等もはつきりし、がんばるお母さん達に町長も支援したいという意欲のもとで、何度も精査をしながら修正案を出したところと思う。現在、米価が引き下げら

修正動議に反対の討論

大澤 和雄 議員

J Aだから、直売所だからと特別扱いには避けるべきで、増改築により数名の会員数を増やすのみの内容であれば、地域雇用創出推進事業補助金を充てるのが妥当と考えられる。特定者に限らない山本・琴丘地域の直売所と同等の取り扱いとなるよう努力すべきである。
よって、平成25年度一般会計補正予算に対し修正を求めるものである。

れている中、今こそ米以外の農産物を販売することで所得を確保することが一番求められていることであり、そういった方々に支援することは、町長の決意でもあると思う。よって、反対である。

修正動議に賛成の討論

清水 欣也 議員

事業計画の全体像が明らかになっ
ていなく、建物の積算根拠も明示されていない。J A秋田やまもと負担分の財源が不透明であり、土地貸付料の積算も不適切である。この計画を練り直して、きちんとした計画のもとに改めて要求をすべきである。また、貸付をした土地に造成費の補助金を出すことは、非常に配慮のし過ぎではないかと思われる。よって、賛成である。

問 琴丘公民館跡地等利活用検討委員会

は、今後あと3回くらいで結論は出てくるのか。出てきた方向性は尊重されるのか。

答 検討委員会から結論を出しても
らい、その考え方を尊重し、町の考え方も示しながら進めていく。



利活用が検討されている町有地

討論終了後、ただちに起立採決を行い、修正動議は賛成3、反対15（定数20、議長・欠員1人を除く）で否決となった。

修正動議に賛成の議員

加藤彦次郎 清水 欣也
堺谷 房子

修正動議に反対の議員

鈴木 一幸 安藤 賢藏
工藤 秀明 平賀 真
伊藤 千作 近藤 一彦
袴田 隆 金子 芳継
大澤 和雄 三浦 敦
宮田 幹保 児玉 重吉
斎藤 清作 後藤栄美子
小澤 高道

その他	決議	平成25年度予算											条例の制定・改正			
平成24年度財政の健全化判断比率・資金不足比率の報告	議会改革特別委員会設置に関する決議	水道事業会計予算の補正	温泉事業特別会計予算の補正	衛生処理事業特別会計予算の補正	介護サービス事業勘定特別会計予算の補正	介護保険事業勘定特別会計予算の補正	農業集落排水事業特別会計予算の補正	公共下水道事業特別会計予算の補正	簡易水道事業特別会計予算の補正	後期高齢者医療特別会計予算の補正	国民健康保険事業勘定特別会計予算の補正	一般会計予算の補正	国民健康保険条例の一部改正	町税条例の一部改正	温泉条例の一部改正	簡易水道給水条例・水道事業給水条例の一部改正
—	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
報告	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決	可決

「森岳温泉水利用研究所」の設置を



清水 欣也
議員

清水 今、森岳温泉の活性化というところが三種町にとって大きな課題となっている。

森岳温泉を元気にさせるためには、どんなことをしたらよいかを考えた時、硫黄分が入っていない、透明度が非常に高い、温度が高く、塩分が濃いという泉質の特徴と、湯が量的に十分に余裕があるという森岳温泉の豊かさに着目した発想が決め手になるように思う。

そこで、先駆的でユニークな温泉の活用方法を研究し、その技術を地域産業の創出と振興に生かすことを目的とした「森岳温泉水利用研究所」を創ることを提案する。

なお、この構想では、研修所そのものを温泉観光の対象にすることも狙いの一つとしている。



森岳温泉分湯場

町長 この構想は、今までと違った角度からの温泉活性化策であり、評価すべき提案だと思う。

賑わいは、その地域に一定の施設数があり、それらが魅力を増し合うことで誘客や集客効果が出てくるものと思っており、温泉水研究所というものもそのような施設の一つになり得るのではないかと考えている。

また、オーバーフローしている膨大な量を活用するということも、大変良い案だと思います。

清水 今回の計画をもう一段進めた形の企画書を町に提出したい。

それを森岳温泉の活性化策の一つとして検討していただきたいと思っていますが、どうか。

町長 森岳温泉郷の新しい資源として検討してみたいと思うので、ぜひ企画書を出していただきたい。

地元企業の育成支援と地域産業の振興

清水 浜田地区にある養豚場の悪臭を取り除くため、

地元の小さな研究所と養豚場の経営者がともに悩み、協力し合いながら研究と実証を重ねた結果、消臭液が開発され、その消臭液の使用によって、40年来の地域の悲願だったあの悪臭の改善が十分に達成されようとしている。

また、その消臭液がセシウムの除染にも効果が表れているとして、その製造技術の特許出願するところまでに至っている。

そこには我が町に新たな産業が芽生えつつあるとあって良い。

そのような企業努力に対し、町としてさまざまな形でバックアップする仕組みを作っているかどうか。

町長 浜田地区にある養豚場の悪臭については、当

地の人でなければ分からない大変な問題があったと思う。それが改善されたということは、画期的なことであり、感謝状の贈呈なども考えてみたいと思っている。

また、町がこのような努力企業に対し支援できるものがないかどうかについても検討してみたいと考えている。

清水 今回の事例に限らず、我が町には独自の研究や考案などに懸命に取り組んでいる企業が少なくないと思っており、地元の企業にやる気を組織的に支援するセクションを立ち上げてはどうか。

町長 企業立地ということでは、思うことは、大きな都市と町村の違いはやはり人的資源ではないかと感じている。

当町は、面積が広く地域資源も豊富な割に、企業誘致や企業立地の点で他に後れをとっており非常に残念に思っている。

そこで、単に職員を増やせば良いというものでもないが、関係部署に少し多めに職員を配置し企業支援の機能を持たせたいと考えている。

大規模災害対策への取り組みは万全か



平賀 真
議員

平賀 東日本大震災以降もさまざまな自然災害が日本各地で発生している。気象庁では特別警報の運用を開始した。大規模停電時も含め、住民への情報伝達体制は万全か伺う。

防災無線の個別受信機の各家庭の状況を把握しているのか。避難指示・勧告の発令・確認状況はどのようになっているのか。避難所には発電機が設置されているのか。

町長 防災無線個別受信機は不具合の連絡を受けた場合や新築、移転、転入等新規に設置が必要となった場合には申し出により修繕や設置を行っている。

個々の受信状態を全て正確に把握しておらず、常に正常な受信ができるように広報等で正しい使用方法の周知を図っていく。

避難指示・勧告の発令と伝達体制は、地域防災計画や避難勧告等の判断・伝達マニュアルにおいて、情報の伝達をはじめ、避難準備・避難勧告・避難指示まで、自然災害等の状況、段階に応じて取るべき措置が決められている。

避難勧告等は防災無線を用いて町民への伝達を行う。状況によっては消防団を通じ重ねて町民への伝達を行う。

また、町職員や消防団、消防署、警察署等の関係機関とも連携を図り、危険箇所や集落の状況を把握しながら、伝達内容を再確認していく。

発電機は個別の避難所に設置していないが、本庁と各総合支所に合計10台用意していて、有事の際にはこれを活用していく。

平賀 町民の防災意識を高めるために、災害発生時の緊急物資の見本（水・食料・生活物資等）を全戸に配布してはどうか。

予算が無ければ「災害緊急物資」と印刷された袋を配布してはどうか（必要物資を明記し、中身は個人で用意）。

予算が無ければ「災害緊急物資」と印刷された袋を配布してはどうか（必要物資を明記し、中身は個人で用意）。

予算が無ければ「災害緊急物資」と印刷された袋を配布してはどうか（必要物資を明記し、中身は個人で用意）。

町長 予算等々の関係もあり、現時点では計画していないが、町広報等を利用し災害発生時に必要な緊急物資等の紹介を検討したい。



釜谷地区防災訓練

児童・生徒の資質向上の取り組みは

平賀 全国学力テストの結果、今回も秋田県がトップクラスとなり、児童生徒の努力や教師初め関係者の指導力に敬意を表したい。優秀な子どもたちが成長し様々な世界で活躍しているはずである。スポーツ界では認識してる

が、芸術文化面での人材が少ないのではないのか。学校ではどのような取り組みがなされているのか。子どもたちの無限の才能を開花させるのが社会の責任であり、優れた芸術文化に触れる機会を与えるべきではないか。

町長 文化庁で実施している「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」を通し、音楽会や演劇鑑賞を行っている。昨年は、町内5小学校で開催され、今年は3小中学校で開催が予定されている。

先月下旬には混声合唱団東京ホームコーラスが来町し、ふるさと文化館での公演や4小中学校での音楽教室を開催している。

このほか、各学校には音楽グループや劇団等を招いて、それぞれの分野で活躍されている方々の演奏や演劇を鑑賞している。

このほか、各学校には音楽グループや劇団等を招いて、それぞれの分野で活躍されている方々の演奏や演劇を鑑賞している。

三種町の観光、イベント等のPRは万全か



後藤 栄美子
議員

後藤

夏のイベントは盛況のうちを終了した。

サンドクラフトは2日間で7千人の減、森岳温泉まつりは2千500人の増であった。各地域の催し物を紹介しているラジオを聞いていたが、三種町のPRはいつも「じゅんさん」ばかりであった。今年のサンドクラフトでは3年ぶりに花火が打ち上げられる内容であったが、ラジオ放送での紹介はなかった。やはりPR不足だと思われる。

ラジオや町内の行政無線でのPRはあったのか。また、



サンドクラフト花火

3年ぶりの花火なのに客数が減ったのはどうしてか。

町長

1日目の花火の日は、周辺市町村が雨降りの天候であったため、来町を見送った方がいたことや、海フェスタおが、能代市の祭典、中学校野球の全県大会など、同日に開催された催し物がたくさんあったためと思われる。

**商工観光
交流課長**

ラジオや行政無線を使ったPR活動はやっていないが、今後は考えていきたい。また、じゅんさんの里活性化協議会で実施しているじゅんさい情報センターでもじゅんさいだけでなく、町の特産品であるメロンや町内のイベント情報もPRしていきたい。

後藤

サンドクラフトでは地元の人を呼ぶような催し物や、保育園児の踊りの再開、砂像連盟と砂像彫刻家の保坂俊彦氏の砂像をもう一度考えてみてはどうか。

**商工観光
交流課長**

メロンサンバの復活は話し合う。砂像連盟の砂像も最高のものであるので、後継者づくりにも力を入れながら考えていきたい。

ゆめろんの大規模改修

後藤

ゆめろんは平成7年7月に「我が町にも温泉を」と、旧八竜町民待望の温泉施設としてオープンした。景気の低迷で入館者数が減ったが、それでも昨年は15万人以上の人が訪れ、宴会数は千回以上であり、その内学校関係の利用数は100回以上ある。売上高も2億円を超え三種町の観光のために欠かせない温泉施設だと思うがどうか。

町長

ゆめろんは年間15万人以上の利用実績があり、交流人口の拡大や町の観光振興にも大きな貢献をしている。

また、30人の従業員を雇用している地元雇用にも大きな役割を果たしている。

後藤

ゆめろん施設の調査結果では、築後18年を経過し浴室が2階なのでその周辺の老朽化、漏水のため地震時の天井材の落下などが懸念されていて、部分改修では長期休業が必要であると報告されている。ゆめろんは旧八竜地域には必要な温泉施設であるので、小手先の改修ではなく大規模改修にメリットがあると思うがどうか。

町長

部分改修では長期間休業が必要であり、将来的な運営を考えると、営業しながら浴室を1階にという大規模改修が最良の選択かと思われる。

後藤

新聞などを見てゆめろんを心配している方々がいる。やはり旧八竜町民にとっては、ゆめろんは保養面や健康面でもなくてはならない施設だと思うがどうか。

町長

地域の活性化のため、町の大きな観光の一つの拠点として頑張っていきたい。

松くい虫被害対策と砂丘地、砂防林対策は



大澤 和雄
議員

町長 松くい虫被害の伐倒駆除については平成17年度より、芦崎地区から浜田地区の防風林と砂丘地の山林を含めた170haを地上散布している。被害木は前年比で減少傾向にあるが、砂防林などが虫くい状態になったことも事実であり、今後とも被害抑制に努めていきたい。

大澤 松くい虫被害によって砂防林が虫くい状態となつて砂防林としての機能が低下してきている。また、砂防の役目を果たしてきた砂丘地の山林も被害状況が著しく、ニセアカシアが自生して、松林が消えつつある。防風林としての機能を維持、回復するためにも防除や枯死木の処理、さらに松くい虫に強い苗木の植林など、さまざまな対応が必要ではないか。

また、県の情報によれば、平成31年には松くい虫に強い抵抗性クロマツ種子が生産開始され、その3年後をメドに販売開始される見込みとなつており、期待している。



松くい虫被害にあった砂防林

日本国憲法についての所見を求める

大澤 政府与党は、日本国憲法改正のねらいが明確に示されている。また憲法第9条を改正するために憲法第96条を改正し発議要件を緩和しようとしている。さらに憲法第9条第2項を改正し「国防

軍」を保持すると明記されている。また、歴代政権が憲法上できないとした「集団的自衛権」を行使するための法案を提出する予定であると報道されているが、町長の憲法に対する所見を伺いたい。

町長 日本国憲法第96条第1項は、憲法改正のためには、総議員の3分の2以上の賛成で国会がこれを発議し、国民に提案して、その承認を経なければならぬと規定している、発議要件を緩和すべきでないと考える。

また、平和のために邁進するという固い決意、憲法第9条の精神は今も生きていていると思う。集団的自衛権については内閣法制局で行使できないと規定しているので、それが正しいと考えている。

他に
「町内の鉄くず等堆積場」
について質問しました。

経済政策「アベノミクス」と 社会保障改悪計画



伊藤 千作
議員

伊藤 アベノミクスの3本の矢、「金融緩和」「財政出動」「成長戦略」が国民の暮らしにどのように影響するのかについて述べる。

第1の矢は、株や輸出品価格、生活物価が値上がりし、物価上昇が起こる。实体经济が伴わず賃金が上がらないために、圧倒的多数の庶民の暮らしは苦しくなる。

第2の矢は、借金を元手にした大型公共事業のばらまきで、ゼネコンなどは潤うが、労働者の賃金は上がらず、肝心の消費内需・家計の消費に基づく内需の不振打開につながらない。

第3の矢は、企業天国を目指す取り組みは公共分野の市場化や社会保障の解体を一層進めることや、道州制導入、PPP参加、消費税増税、法人税減税などと一体である。

地域自治体にとっても長期的な意味を含め、かなり深刻な影響を与える。

社会保障改悪計画は、まず、70歳から74歳の医療費、窓口負担を1割から2割へ引き上げることや、消費税が8%にアップすれば、ダブルパンチになる。

介護では、要支援1と2の人たちを保険給付の対象から外し、特養ホーム入居を要介護3以上に限るなどの介護保険大改悪。

年金支給額も連続して減らされ、その上、今年10月から

特例水準の解消と称し、3年かけて年金額を2.5%減額することが決められている。町長の見解を伺う。

町長 アベノミクスでデフレ脱却のスピード感ある政策発動などで、企業や消費者を前向きに変えた功績は大きい。日本を覆っていた閉塞感、半年余りで薄まったのは確かであろうと思う。

ただ、「地方への効果見通せず」とマスコミも書き、株高などは实体经济を反映せず、電気料金や食料品などの



高齢者と子供たちのふれあい

値上がり相次ぎ、家計を圧迫し始めていることに加えて、株価が乱高下、長期金利も上昇するなど、先行き不透明感が拭いきれない。

「アベノミクス」に関しては、手放しでは喜べないというのが実態ではなからうかと考えている。

社会保障改悪計画に関しては、急速な少子高齢化で年金、医療、介護の給付金が増大し、現役世代の負担で高齢者を支える現行の社会保障の原則では制度を維持できないのは明らかではないか。国民会議では、支払い能力のある高齢者を含めた全世代型に転換するよう提言したのは、やむを得ないと考える。

福祉灯油の実施を

伊藤 高齢世帯等へ冬期間暖房に必要な灯油の一部助成を行ってはどうか。

町長 今後、国・県・周辺市町村の動向を見て対応したい。

平成25年5月に行われた漏水調査によると、「浴室とその周辺の老朽化が著しく、配管、サッシ廻り、防水層からの漏水があり、設備機器の老朽化も顕著である。また、浴室スペースが2階に配備されており、配管ピットが設けられていない、配管スペースが狭いため、長期間の休業により徹底した改修工事が必要だが、その改修で完全に改修されるところは考えにくい」との厳しい状態であると報告されたが、建設翌年からすでに雨漏れが発生するなど、これまでに再三の補修や改修が行われたことに不自然さを感じる。また、今回も浴室の「長期間の休業により徹底した改修工事をして、完全に改修される」とは考えにくい」という内容に

ゆめろんの漏水状況調査と今後の改修計画について

所管事務調査報告

産業建設常任委員会

調査日

平成25年
7月18日(木)



ゆめろんの現地調査

についても理解しがたいところがある。いずれにしても老朽化の進行があまりにも早いように思われるため、改善を含む改修を考えているとすれば、鉄筋コンクリート造2階建てがまだ17年しか経過していないことも十分反省しながら、適正な改修方針を慎重に検討すべきである。

また、駐車場からの外階段の段差がきつい状態にあり、今すぐにでも改善すべきである。

ゆうばるの現況視察

ゆうばるは昭和39年、県職員の保養施設として設立された建物だったが、それを廃止することから町が譲り受けたものである。築後、49年から50年経過したもので、宿泊棟については、若干の床下改修工事としてはいるものの、道路と敷地地盤の高低差が1.5mから1.8m程あり、また南側にある沼も建物からの距離も近く、さらに、窓もすき間が多く木枠ということもあり、湿気や換気の悪さから、今では建物内部だけに留まらず、外壁全体にもカビが発生しており、健康への影響も懸念される状態にある。この他、宿泊棟については、災害時のすみやかな避難誘導も懸念されるなど、多数の問題点もあり、立地条件の改善も含め、抜本的な検討も必要と考えられる。

また、昨年の強風により破損したとされる屋根の修繕を行ったが、一昨年も修繕した屋根が、また破損し修繕が必要となった。屋根材が特殊であるようなので、果たして風だけが原因とはいえず、破風部分の破



ゆうばるの現地調査

損状態を見ると積雪も大いに関係あるのではと思われ、工法や材質の検討が最も必要な重要事項と思われる。

第4回

臨時会

日時：平成25年7月26日(金)

●財産の購入

- ・購入物件 三種町財産管理台帳システム
- ・契約相手 株式会社ビー・エイチ・シー
代表取締役 池淵 幸治
- ・契約金額 31,500,000円
(内取引に係る消費税額及び地方消費税額1,500,000円)

原案可決

●財産の購入

- ・購入物件 ローター除雪車 1.3m級 1台
- ・契約相手 有限会社能代重機サービス
代表取締役 加藤 実
- ・契約金額 14,175,000円
(内取引に係る消費税額及び地方消費税額675,000円)

原案可決

●工事請負契約の締結

- ・平成25年度農業水利施設保全合理化事業第04101号工事
- ・契約相手 本荘電気工業株式会社
代表取締役社長 塩谷 久樹
- ・契約金額 99,246,000円
(内取引に係る消費税額及び地方消費税額4,726,000円)
- ・工 期 平成26年3月20日

原案可決

●工事請負契約の締結

- ・琴丘小学校校舎耐震改修工事
- ・契約相手 中田建設株式会社
代表取締役社長 広幡 信悦
- ・契約金額 51,345,000円
(内取引に係る消費税額及び地方消費税額2,445,000円)
- ・工 期 平成25年11月30日

原案可決

●工事請負契約の締結

- ・山本中学校校舎大規模改修工事
- ・契約相手 成田建設株式会社本店
本店長 大和 公彦
- ・契約金額 126,252,000円
(内取引に係る消費税額及び地方消費税額6,012,000円)
- ・工 期 平成25年12月10日

原案可決

●平成25年度一般会計予算の補正

- 〈主な内容〉
- ・未熟児養育医療費 …………… 240万2千円

原案可決

請 願

陳 情

審査報告

陳 情

件 名	請 願 者 氏 名	審査委員会	結 果
違法な臓器生体移植を禁じることを求める陳情書	兵庫県伊丹市北伊丹1丁目75 井田 敏美	教育民生常任委員会	不 採 択
「森林吸収源対策及び地球温暖化対策に関する地方の財源確保のための意見書採択」に関する陳情	全国森林環境税創設促進議員連盟 会長 板垣 一徳	総 務 常 任 委 員 会	採 択
道州制導入に反対する意見書	全国町村会議議長会 会長 蓬 清二	総 務 常 任 委 員 会	採 択
経済・雇用対策強化のための地方財政の充実を求める意見書採択に関する陳情書	連合秋田能代地域協議会 議長 薄井 司	総 務 常 任 委 員 会	採 択
「原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律」改正を求める意見書採択についての陳情	秋田県原爆被害者団体協議会 会長 小山 春雄	教育民生常任委員会	継続審査

三種町子ども議会 小中学生議員18人が登壇

◆一般質問通告書（平成25年度 三種町子ども議会）

質 問 件 名	議 員 名
通学路の安全について	水野 心平 議員 若狭 美羽 議員 森岳小学校
町の除雪の体制について	清水 裕奈 議員 山田 雅也 議員 金岡小学校
お年寄りが安心して暮らせる町づくりについて	高橋 北斗 議員 清水明日香 議員 浜口小学校
今年の目玉となる事業について 三種町での減税について	佐々木太陽 議員 高橋 桃子 議員 湖北小学校
三種町の観光PRについて	小玉 雄士 議員 渡邊 未央 議員 琴丘小学校
町の高齢者福祉の充実について	石井 拓馬 議員 佐々木妹依 議員 下岩川小学校
住宅用太陽光発電システム設置について	三浦 春奈 議員 齊藤 慧晋 議員 山本中学校
T P P 加入による三種町への影響 と未来の三種町農業の形について	成田 颯樹 議員 荒川 奈央 議員 八竜中学校
三種町の水道水の放射性物質検査について	小玉 智仁 議員 渡辺 和花 議員 琴丘中学校

8月5日、三種町議会議場において、「三種町子ども議会」が開催された。

三種町の将来を担う子ども達が、町政への関心を高めることを目的に町内6小学校から12人と町内3中学校から6人の計18人が登壇し一般質問を行った。

議事日程は今年も町議会と同様に行われ、議事進行は児玉議長が務め、答弁者には三浦町長をはじめ副町長、教育長、各課長が出席し、それぞれの質問に応じて答弁にあたった。



7月23日に秋田県市町村会館で町村議会議員研修会が開催され、県内町村の議会議員、事務局職員165人が参加した。講演では2名の講師が登壇し、中央大学大学院教授の佐々木信夫氏が「これからの町村議会のあり方」を演題に、これからの町村議会の役割やあるべき姿について解説され、日本大学法学部教授の岩井奉信氏が「今後の政局のゆくえ」と題し、安倍政権の今後のゆくえや経済政策の展望などについて講演された。

秋田県町村議会広報研修会

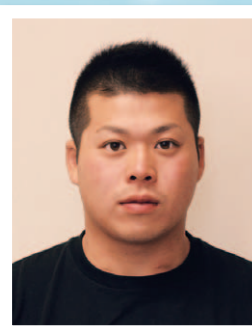


7月23日に秋田県市町村会館で町村議会議員研修会が開催され、県内町村の議会議員、事務局職員165人が参加した。講演では2名の講師が登壇し、中央大学大学院教授の佐々木信夫氏が「これからの町村議会のあり方」を演題に、これからの町村議会の役割やあるべき姿について解説され、日本大学法学部教授の岩井奉信氏が「今後の政局のゆくえ」と題し、安倍政権の今後のゆくえや経済政策の展望などについて講演された。



秋田県町村議会議員研修会

三種の星



能代山本広域消防士
藤原 和朋
(金岡地域在住)

私は高校からウエイトリフティングを始め、高校3年時にインターハイと国体で優勝することができました。その後、大学に進学し4年間ウエイトリフティングに打ち込み、怪我に泣かされながらも、家族を始め指導者や切磋琢磨した仲間、地元の方の声援に支えられ、4年時に念願である全日本インカレで優勝することができました。

現在は地元で就職し、仕事をしながらウエイトリフティングを続けています。はじめは学生時代とは違い、思うような練習ができずになかなか調子が上がってきませんでした。最近ようやく仕事と練習との生活のリズムにも慣れ、少しずつではありますが調子も戻ってきました。職場の方々にも支えられ、

練習に取り組みやすい環境にあることにとても感謝しています。

今年の8月に山形県で開催された東北総合体育大会では調子が戻らないながらも、皆様の応援のおかげでなんとか優勝することができました。10月3日から6日に開催される東京国体でも、少しでも良い結果が出せるよう全力を尽くします。

私は今地元に戻り、改めてたくさんの方々に支えられ競技を続けられていると実感しています。感謝の気持ちを忘れずこれからも精進していきます。

また、現在母校である能代工業高校のコーチも務めさせていただき、競技指導の面でも頑張りたいと思います。大学時代に



優勝を決めた全日本インカレ大学対抗選手権大会



東日本学生個人選手権大会 優勝

培った経験から指導をしていますが、まだまだ知識不足でうまく指導できていません。たくさんの方の指導者にお話を聞き自分の知識を増やし、母校のウエイトリフティング部をさらに強くできるよう努力していきます。

編集後記

9月16日の台風の雨による被害は、我が町にも大きなつめ痕を残しました。

床上浸水・床下浸水の家、冠水した田んぼ……。我が家も床下浸水に遭いました。よく「想定外の出来事」と言いますが、今回の河川の水量の多さは、まさにその通りでした。土のう袋の上を超えてくる水の流れを、ただ見ていることしかできませんでした。改めて自然の恐ろしさを目の当たりにしました。

山本地域の被害は、もっと大変であつたろうと思います。被害に遭われた皆さま、家屋の後かたづけ、稲刈りの繁忙で忙しいと思いますが、体調に気を付けてがんばってください。

また、消防団のみなさん、一生懸命がんばってくれて、本当にありがとうございました。

後藤栄美子 記

